

響の記憶

160 平塚中等教育学校

相模川を渡る手前、電車のスピードが少しだけ上がった気がした。

高1の夏。いつもの通学路なのに、窓の向こう側の景色はどこか特別に見えた。

ガタゴトと刻まれていたリズムが突如として激しい騒音へと変わる。

横を走る貨物列車の無骨な車体が、一瞬だけこちらの視界を遮った。

窓を開けると、爽やかな川の匂いの中にかすかに潮の香りが混じっているのがわかった。

目の前に広がる相模湾。波頭がキラキラと光りを反射して眩しさに思わず目を細める。

鉄橋を渡り終える。

すると、あの激しい音が嘘のように消え去り

またいつもの日常の走行音へと戻っていく。

車内には通り抜けた湘南の風の冷たさと、風が運んでくれた微かな磯の匂いが残っていた。

それは、僕たちの青春を乗せて走る、

一瞬の夏の音だった。

あの時、あの橋から見つめた青い海。

そしてガタゴトと響いていた金属の音は、

今も僕の胸の中で、静かに鳴り響いている。



旅する人
江戸川乱歩賞
2026 出展作品